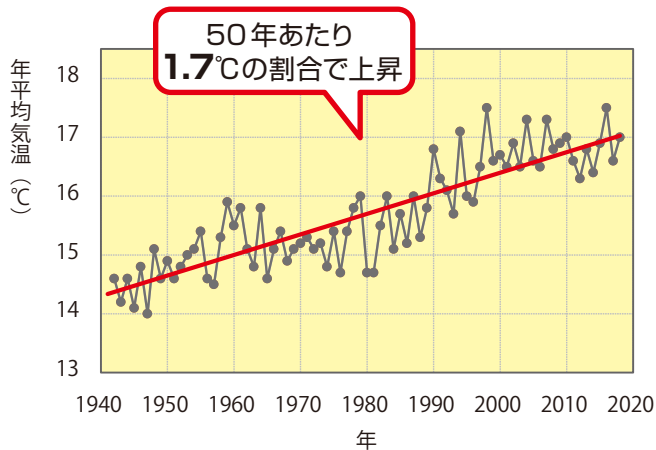


環保研 だより

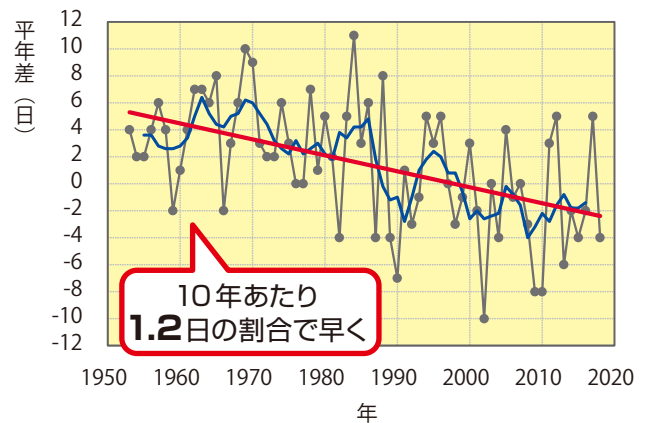
Vol.35
2020. 3

香川県気候変動適応センターを設置しました

近年の頻発する大雨や猛暑、桜の開花の早まりなど、私たちの身のまわりでも気候変動の影響が顕在化していることを実感している人も多いのではないのでしょうか。こうした異常気象を伴う気候変動は、自然災害以外にも、農作物の品質の低下・収穫量減少、熱中症や感染症の増加など、私たちの生活や社会、経済に様々な影響を与え、地球温暖化が進むと、その影響がさらにひどくなっていくかもしれないのです。



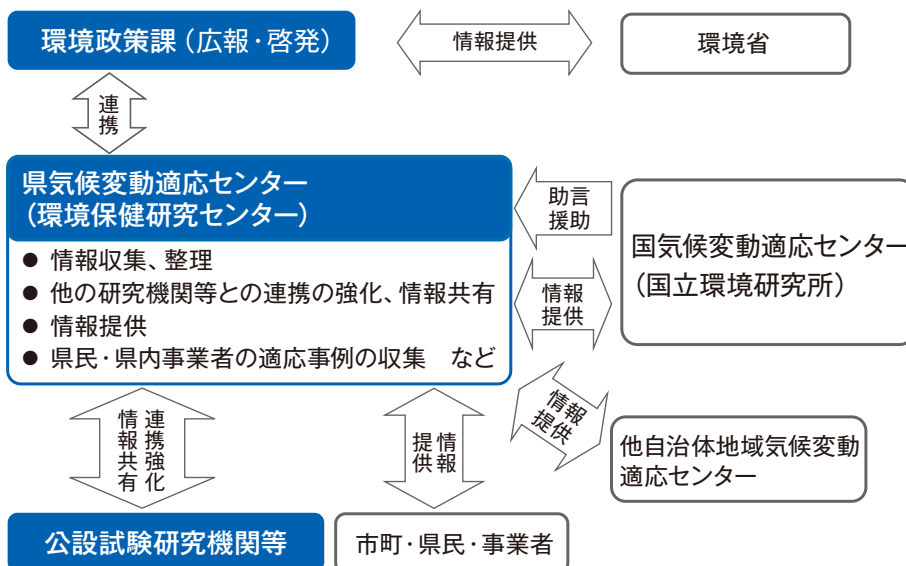
高松地方気象台における年平均気温の経年変化



高松における「さくら開花日」の経年変化

(出典) 高松地方気象台の観測データから作成

こうした中、地域の気候変動影響及び気候変動に関する情報の収集、整理及び提供等を行う拠点として、令和元年10月1日に「香川県気候変動適応センター」を設置しました。



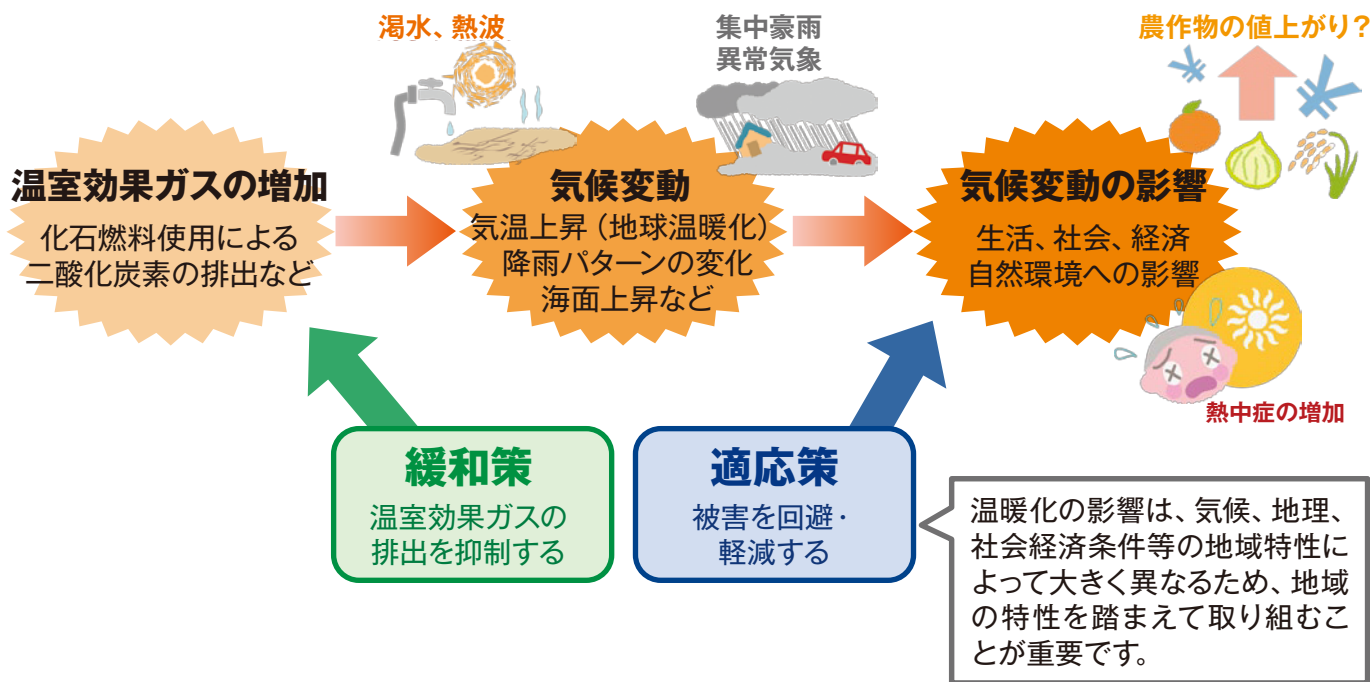
香川県気候変動適応センターの役割と連携体制のイメージ

センターでは、国の気候変動適応センター（国立環境研究所）や県内の他の研究機関等と連携する等により、情報基盤を強化するとともに、県民や県内事業者への情報提供を通して地域の「**適応策**」の取組みを促進していきます。

「適応策」とは
温暖化によりすでに起こりつつある気候変動の影響に備えた対策をあらかじめ行い、被害を軽減しようとするものです。

まず、地域での影響を確認し、 自分たちの地域で何ができるかを考えてみましょう

現在、世界の国々は協力しあい、温室効果ガスの排出を減らす「緩和策」の取組みを行っています。しかし、既に気候変動の影響は発生しており、直ちに最善の緩和策を行ったとしても、世界の温室効果ガスの濃度が下がるには時間がかかることから、今後数十年間は、ある程度の温暖化の影響は避けられないとされています。そのため、差し迫った影響に対処する「**適応策**」を地域の実情に応じてきめ細かに対応することが必要です。



温室効果ガスのモニタリング調査

環境保健研究センターでは、今年度から3か年の計画で、温室効果ガスのモニタリング調査を始めました。

温室効果ガスは、大気中の濃度が比較的高い二酸化炭素が一般によく知られ影響も大きいとされていますが、農業・畜産の生産現場から発生するメタンや冷凍・空調機の冷媒や工業などで使用されているフロン類やパーフルオロカーボン類など、大気中の濃度は低いものの温暖化係数が十数倍から数万倍のものが知られています。特に、フロン類などは種類が多いため、一部のものしか大気中の濃度を測定されていないことからデータが不足しており、温暖化に及ぼす影響については不明な点も多くあります。

地球温暖化等による気候変動への対策として、温室効果ガスの排出削減対策（緩和策）と気候変動の影響による被害の回避・軽減対策（適応策）は車の両輪として進めていくことが重要です。

そこで、使用量が多く地球温暖化係数が高いフロン類を中心に測定方法を検討し、県内6地点で年4回測定してデータを蓄積することで、温暖化や気候変動を解析・検証する際の一助とするとともに、県民の適応策に関する理解や情報の不足を解消することで、自らが気候変動適応行動を実施するようライフスタイルや事業活動の変化を期待しています。

風しんの発症ゼロを目指して!

風しんはワクチンで防ぐことが可能であるため、世界的にワクチンを活用した風しんの排除目標が掲げられており、2020年までに風しんや先天性風しん症候群の発症を無くすことを目指しています。

〈目標は順調に進んでるの?〉

2019年の世界各国風しん発症数を見た場合、日本は第3位と他国に比べて多く、対策が遅れています。そのため、追加的対策として30～50歳代の男性（第5期）を対象としたワクチン接種が始まりました。積極的にワクチンを接種し、発症ゼロを目指しましょう!

発症数トップ10 (2019年) ※

国	発症数
中国	31240
インド	2819
日本	2352
ナイジェリア	1633
パキスタン	1076
南アフリカ	911
インドネシア	730
ウガンダ	378
コンゴ民主共和国	327
ポーランド	310

※ WHO | Measles and Rubella Surveillance Data (2019.12.13 最終更新) を基に作成

〈風しんって?〉

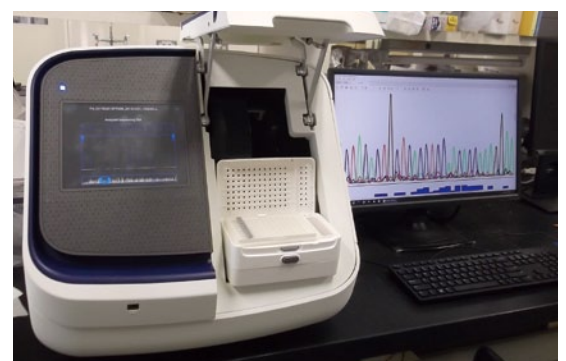
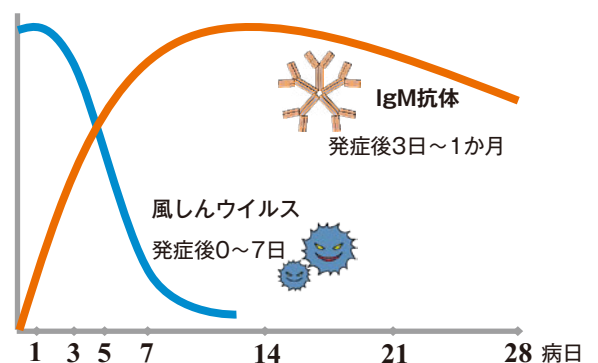
風しんとは発熱、発疹、リンパ節腫脹を起こすウイルス性発疹症です。また妊娠初期の方が風しんに感染した場合、ウイルスが胎児にまで感染し「先天性風しん症候群」と呼ばれる症状を発症して産まれる可能性があります。

〈風しんってどうやって見分けるの?〉

かつては風しんの診断は臨床症状から医師が判断していましたが、必ずしも典型的な症状を発症するわけではなく、伝染性紅斑（りんご病）などの似かよった疾患を風しんと誤って診断することもあったため、現在では検査結果をもとに判断しています。

検査法はIgM抗体検査法と遺伝子検査（PCR）の2種類が挙げられます。

	IgM抗体検査法	遺伝子検査 (PCR) 環境保健研究センターで実施
検出時期	発症後3日～1か月 発症後、時間経過とともに抗体が体内で生成され、検出感度が上がる	発症後7日程度 発症直後はウイルス量が多く、時間経過とともに徐々に減り、検出感度が下がる
正確性	他の疾患の抗体が反応する場合があります、偽陽性を示すことがある	風しんウイルス遺伝子のみが特異的に反応する



遺伝子解析装置

研究テーマ外部評価委員会が開催されました

外部評価は、県の試験研究機関が行う研究について、外部の専門家等による適切な評価を行うことにより、県内産業の競争力の強化や県民生活の質の向上につながる実用的な研究を推進するとともに、研究機関の活性化を図ることを目的として実施するものです。

令和元年度は、事前評価2題が評価され、いずれも評価基準（A～Cの3段階）のうち、A評価（計画のとおり研究を実施するのが適当）でした。



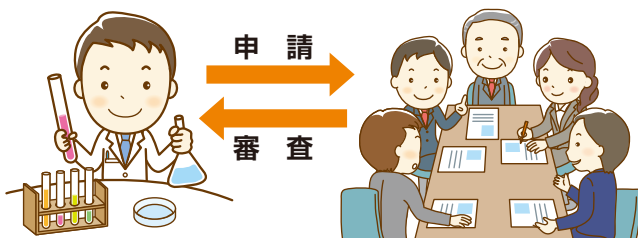
	研究テーマ	研究期間
事前評価	環境DNA分析による水生生物等の生息調査	令和2～4年度
事前評価	食の安全・安心確保のための研究 トータルダイエット（日常食）調査試料を用いた食品中の 残留農薬検査の迅速化	令和2～4年度

倫理審査委員会が設置されました

人を対象とした医学系研究は、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の趣旨に基づき、個人の尊厳及び人権の尊重、個人情報保護、その他の倫理的配慮の下で適切に行われなければなりません。

そのため、医療、法律の有識者及び一般の方等で構成される倫理審査委員会を設置し、医学系研究について、倫理的観点及び科学的観点から研究計画について審査していただくこととなりました。初回となる今回は7つの研究計画が申請され、審査を受けました。

	研究の名称	審査の結果
1	香川県におけるA群ロタウイルスの遺伝子型別検出状況調査	承認
2	遺伝子解析を用いたノロウイルス対策	承認
3	香川県内のカルバペネム耐性腸内細菌科細菌（CRE）薬剤耐性遺伝子の検出状況	条件付承認
4	香川県内で検出された結核菌の分子疫学（VNTR）調査	条件付承認
5	食品由来薬剤耐性菌のサーベイランスのための研究	承認
6	香川県で分離された腸管出血性大腸菌の分子疫学解析	条件付承認
7	PCR法による <i>Campylobacter jejuni</i> の血清型別法の検討	承認



KAGAWA環境研だよりVol.35 令和2年3月

編集・発行 香川県環境保健研究センター

〒760-0065 香川県高松市朝日町5丁目3-105

TEL (087)825-0400 FAX (087)825-0408

E-mail:kanpoken@pref.kagawa.lg.jp

URL:https://www.pref.kagawa.lg.jp/content/etc/subsite/e_center/index.shtml